

## グループホーム「櫻」第33回運営推進会議議事録

日時 平成26年10月28日(火) 14:00～15:00  
場所 グループホーム「櫻」 2F 食堂  
出席者 運営推進会議委員  
逗子市介護保険課 課長 石黒貫爾  
社協：地域包括支援センター管理者 渡邊誓子  
(代理：大内様)  
逗子市民生委員 中田美代子  
ご家族代表 今井真知子  
「委員5名中 4名出席」  
医療法人社団柏信会 看護部長 岩木和子  
グループホーム「櫻」 管理者 須山司  
事務長 遠藤勝三

### 会議概要

#### 1. 開会の辞

定刻、事務長は各委員に本日の出席を謝すと共に理事長及び葉桜自治会の松下氏が所用ため欠席する旨を伝え、配布資料の確認後、議事に入る。

#### 2. 理事長挨拶

理事長欠席により省略

#### 3. 「櫻」新管理者紹介・挨拶

事務長は新管理者を以下の略歴等を披露し紹介した。

資格：介護福祉士・介護支援専門員・認知症ケア専門士・防火管理者

職歴：平成11年以降、有料老人ホーム、小規模多機能施設（サービス）居宅介護支援施設等に於いて、介護職、ケアマネ、生活相談員、管理者等を経験し今日まで介護一筋の人材で、今後の櫻における強力な戦力として期待される。

紹介後、新管理者の挨拶及び各委員の自己紹介を行った。

挨拶、紹介の終了をみて事務長より以下について報告説明が行われた。

#### 4. 議題等

##### (1) 報告事項

ア 入居者の現況及び活動状況について（資料により説明）

：入居者の現況

本年4月以降、近隣における新施設の開設の影響で一時期5部屋からの空き室が生じた。収入も約27%減の状態でご慢の運営を強いられたが、5月、8月、9月、10月に書く1名の入所者があり現在は空き室1の状態です。これについても数件の引き合いがあり今年中には満室にしたいと努力している。

入居者の現況は資料のユニット合計のところで説明する。

前回報告時から入退所、加齢、要介護度の変更等があり、要支援2は0から1名の増、要介護度1は1名、要介護度2は3名、要介護度3は5名でそれぞれ増減なし、要介護度4は1から2名の増、要介護度5は1名の減で4名の計17名

年齢別では最高齢が97歳、最低年齢は76歳で平均年齢は87.76歳で1.24歳若返りました。

地域別では逗子市が16名、葉山町1名となっています。

なお、ユニット別では平均介護度Aが3.5度、Bが3.0度とAユニットが0.5度高く平均年齢も3.28歳高くなっています。

：活動状況

月刊の「さくら」7月号及び8、9月号で概要を説明。

各号は恒例の誕生会やお祭り見物などを実施、活動状況として常生活の様子とお祭り見物を掲載しました。

ご家族への連絡等については、7月はご利用者様の現況、がん診、8月はご利用者様の現況、受診状況を、9月はご利用者様の現況、職員人事、救急法講習会等について掲載しました。

また、各号でご家族様へ「さくら」への寄稿を呼び掛けておりますが反応はありません。本委員会の皆様にも俳句や川柳の一句也ともお寄せ頂きたいと思っています。

※ 活動状況について口頭により補足

9月26日（金）13：30～15：00、逗子市消防救急隊員3名の派遣を得て人工呼吸、AED（自動体外除細動器）について講習を受ける。（参加職員13名）

10月6日（日）少し遅れたが「櫻」恒例の敬老会を開催。

台風18号の影響下ではあったが、ご家族の参加18名、コーラスボランティア28名の参加を得て楽しいひと時を過ごす。

また、短い時間であったが家族懇談会も開催有意義であった。

- イ 平成26年外部評価訪問調査について（資料により説明）
  - 今年度訪問調査は平成27年1月14日（水）に行われる。
  - 訪問調査は資料1Pの「外部評価に係わる倫理規定」に基づいて調査員が出向して行われます。
  - 資料2P以降により評価手順、必要書類、調査当日の流れの概要について説明する。
  - なお、家族アンケートの依頼は既に郵送した事を補足。

## （2）その他（懇談形式で実施）

以下、発言の主な概要を記述する。

- ： 最近の介護職の人材不足について、福祉関係施設はいずれも同様であるが、人材募集に対する応募者が少ない。新聞折込を含めあらゆる媒体を介して募集に努めているが反応が無い。これはサービス業全般の問題でもある。（遠藤）
- ： 地域での人材掘り起こしが必要かと思われる。どこの介護現場でも同様であるが地域等における人材の掘り起こしが重要と考える。仕事をしたい人のタイムスケジュールに合わせることも人材確保の一手段ではないか。（大内）
- ： 包括支援センターが要請している認知症サポーターの反応は（須山）
- ： 認知症サポーターについては地域の反応は多いが、それが直接介護職員に結びつくまでには至っていない。（大内）
- ： 今後における「櫻」の展望について、家族会の発展や「櫻」から地域に向けての発信を行って行きたい。（須山）
- ： 地域や家族との交流会を計画してはどうか。（岩木）
- ： 家族会について、現在までの「櫻」における考え方は、家族同士の自主的な発展に期待し、敬老会、誕生会、諸行事に家族の参加を促し場面作りに努めてきたが、その兆しは見えてこない。今後は施設側からの呼びかけ等を行う事も結成には必要かと思われる。但し、ご家族各々の事情が異なるのでその面の配慮が必要と考える。拉致被害者や学校関係等の家族会とは同一視できない。一般的な家族会をイメージしては単なる押し付けになる危険も顧慮する必要がある。（遠藤）
- ： 検討して頂くのは結構だが継続の是非も課題として欲しい。（今井）
- ： 地域との繋がりや係わりについては、葉桜自治会は積極性があり、他町内より若い世代が多い。（大内）
- ： 地域との繋がりでは「櫻」の広報誌「さくら」を自治会に配布してはどうか。これらによる地域との係わりの中から介護職に興味を持

つ人がでる可能性も考えられる。(中田)

その他、介護保険法の改正に伴う逗子市の計画、取り組み等についての岩木部長の質問に、逗子市の考え方、方向性について石黒介護保険課長から概要説明があったが、議題外として内容は割愛する。

#### 4 閉会の挨拶

事務長は意見交換等の終了を見お計らい次回開催日を委員に諮る。

※ 次回開催予定：平成27年1月27日（火）14：00～15：00

以上をもって会議終了を宣する。